

ESシートを活用した継続的な授業改善の試み

小川 勤

(山口大学大学教育機構大学教育センター)

1. はじめに

現在、本学では最終回の授業時に学生授業評価を実施している。評価項目は各学部・学科等によって相違があるが、授業に対する満足度や板書・情報機器の使用法等の評価項目は全学で共通化している。授業担当者はまず、教員授業自己評価を入力して登録し、次に、学生授業評価の結果を閲覧する。最後に自己評価と学生による評価の相違を確認し、授業の改善点を入力する。最後の授業改善点についてはWeb上で公開している。しかし、この手法であると、評価の実施時期が遅く、結果が教員にフィードバックされるまでに授業そのものが終了してしまい当該授業の改善には結び付かない。したがって学生からは授業が良くなれない、学生授業評価の結果を公表してほしい等の不満意見が多く寄せられる。もちろん次学期や次年度の授業の改善には活かされるので授業評価は有意義なものである。しかし、現在実施されている授業の改善に結び付けていくためには学生から意見（コメント）を聞いて、随時次回の授業までに改善していく迅速な対応が望ましいのはいうまでもないことである。そこで、本報告では学生の意見を確実に吸い上げ、それを迅速に授業改善に結び付けていくために毎回の授業の終了時点で学生にESシート（Evaluation Sheet：授業評価シート以下ESシート）を記入させ、継続的な授業改善を実践した成果を紹介する。

2. コメント収集方法とESシートの内容

ESシートを利用して学生の意見収集を実施した科目は共通教育の教養科目「教育学」という文系の講義であった。受講生は1年生中心に174名で、医学系の学生を除いた全学部の学生が受講している。受講生が多い大規模講義であるためパワーポイントを多用することが特徴的である。授業では当初学生に授業終了時にESシートに学籍番号と氏名、それに授業に関する質問項目として5項目の質問を予めESシートに印刷し、これに回答させるようにした。5つの質問項目に対しては5段階評価で該当する箇所に○をつける方式で回答してもらうことにした。ESシートの回収数は、130～150くらいの範囲で学生の出席状況により変動する。学生には5つの質問以外に、次回の授業までに改善して欲しい点や授業内容についての質問について自由記述の形式で記入するように指示した。また、コメント内容はあくまでも授業改善や学生とのコミュニケーションを取るために実施され、成績評価に影響のないことを初回の授業で説明した。5つの質問事項は以下の通りである。

- | | |
|---------------|------------------|
| ①授業内容は理解できたか？ | ②板書はよかったか？ |
| ③声はよく聞こえたか？ | ④情報機器の使い方はよかったか？ |
| ⑤授業の展開はよかったか？ | |

3. コメントの内容の分析と対応

(1) 5つの質問事項に関する分析

①の「授業内容の理解について」は第1回目から第3回目までの授業においては、5段階評価で4.55→4.59→4.14への下降する傾向がみられる。これは内容が徐々に難しくなっていくためであると考えられる。②及び③の「板書」、「声」については、第1回目から第3回目までの授業においては、5段階評価でそれぞれ4.45→4.50→4.47、4.35→4.52→4.47となっていて比較的安定した値を示した。④の「情報機器の使い方」については、第1回目がパソコンとプロジェクタとの接続関係が悪かったため使用できなかったため第2回目から第3回目までの授業において調査を実施した。その結果、5段階評価で4.36→4.36となつて変化がなかった。

(2) 自由記述に関する分析

4回目の授業以降は、自由記述形式で授業に対するコメントを収集した。当初、パワーポイントの使い方については、スライドの切り替えが早すぎてノートに書く時間が足りないという意見が全体の45.8%から寄せられた。このため、第5回目の授業以降は、講義内容の概略を記載した「講義用レジュメ」を作成し配布した。また、研究室のホームページ上に講義で使用したパワーポイントのスライド教材を講義終了後アップロードして学生に自由にダウンロードできるようにした。これによって、学生は比較的時間の余裕を持って講師の話しを聞くことができるようになったというコメントが5回目以降の授業のコメントで増えてきた。最終回の授業評価でも「情報機器の使用法」については科目平均を上回る結果となり学生に好評であった。パワーポイント教材に関しては、色の使い方や字の大きさ、1ページのスライド中に使用する字の分量などについて様々なコメントが寄せられ、その度に改善を図った。

4. 学生授業評価と授業改善

本学では最終回の授業で学生授業評価を実施している。その結果と毎回の授業における改善との関係を分析する。「教員の話し方は聞き取りやすさ（当該授業 4.39 科目平均 4.35：以下表示方法は同形式）」、「板書の適切性（4.10 4.09）」、「情報メディアの効果的な利用法（4.20 4.07）」の3項目に関しては他の同一科目「教育学」（6講座開設）の科目平均より上回る結果となった。これはESシートを活用して毎回の授業で改善点を学生にコメントさせ、次回までに改善するように努力した結果を学生も認めてくれた結果であると考えられる。一方で「学生の疑問・質問に答える機会の提供（3.37 3.72）」、「教員の身振りや手振り、目を見て話す（3.89 4.02）」は、科目平均より低い結果になった。これは200名近い大規模授業であり、ESシートに毎回質事項を記入するように指示したにも拘らず学生は質問に答える機会が少なかつた感じた点は今後改善が必要と感じた。また、どうしてもパワーポイント中心の授業になってしまい、授業担当者の身振りや手振り、目を見て話すなどについては大規模授業では限界があるのかもしれないと感じた。また、「授業内容について理解したか？」については3.52で科目平均の3.58と比較してそれほど差がなかった。授業内容に対して様々な工夫や改善を実施した結果、学生は授業内容を理解したようである。